



2016. 11. 1

11月ようちえんだより

西神戸 YMCA 幼稚園

秋の夜長、虫たちの声も日増しに澄んでゆく空気に大きく響いて感じます。運動会やお芋掘りが終わり2学期もはや2ヶ月が過ぎようとしています。4月からの様々な活動を通して、子どもたちは本当にたくましくなってきました。今まで周りを見渡し様子伺っていた年少さんも、満面の笑みで園庭を駆け回る姿が見られ、子どもたち同士で遊びに興じている場面は、心の底から楽しんでいる姿が見て取れます。そして年中組、年長組さんに関しては活動的なアクティブな遊びから、自ら遊びを作って楽しむより積極的なプロアクティブな遊びになってきています。今や幼稚園は自分たちのお城といった感じでしょうか。そんな子どもたちの様子を見て「楽しそうだな～」と、心からうらやましく感じています。

11月の月主題は「ありがとう」です。感謝の言葉は国によって違うのは当たり前ですが、ある調査によるとそれぞれの国々の語源がとても興味深いです。英語のサンキューThank youのThank語源はthinkだそうです。直訳するとThink you「あなたのことを考えます。あなたのことを思います」と訳され、「あなたのこと受け止めますよ」というメッセージになるのでしょうか。ドイツ語のダンケン dankenもデンケン denkenが語源で同じ「考える」という意味があるようです。フランス語のメルシーmerciは「神の恩恵」という意味でロシア語ではスバシーバ「神のご加護を」と神さまに対しての言葉の意味があるようです。まだまだいろんな国の「ありがとう」がありますが、語源は国によって違うものの感謝という意味には大きな違いは無いようです。

さて、日本語では「ありがとう」を「有り難う」と書きます。困難が有るという意味になるので、感謝とは違う意味のように感じますが、そうではないようです。反対に困難が無いことを「無難」と言います。無難な人生、無難な選択とか、解釈によってはそれほどネガティブなイメージはありませんが「ありがとう」の反意語という意味ではあまり良い言葉ではないのかもしれない。「かわいい子どもには旅をさせる」ということわざがあります。旅(人生)というのは親の庇護も無く自分で解決しなければならない困難がたくさんあります。その中で、親以外の協力者に出合い、ともに困難に立ち向かったり、乗り越えたりすることが一人ひとりを強くし成長につながるということ。まさに感謝に値する有り難いことなのだとということだと読みとれます。

私たちはついつい子どもたちが辛い思いをしないように、困難に遭わないようにと、先回りして困難を避ける援助を行っているのかもしれませんが。子どものすべてを知りたい、失敗をさせたくない、悲しい思いをさせたくない、そんな気持ちから親は子ども自身の成長を阻害してしまう口出しや手出しをしてしまいがちです。しかし、人間は様々な困難に直面してそして、悩み考えながら成長するものだという事。直面する困難はそれぞれの世代やグループで違って来るでしょうが、幼稚園や子どもの世界でも同様に子どもなりの困難は有るものだという事。「ありがとう」にはそのような意味があることをしっかり受け止めて、子ども自身の力を信じて見守ることが、親の大切な役割だということを忘れないでいたいと思います。

年主題 「平和とともに」

11月主題 「ありがとう」

聖句 “喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい”

(ローマ信徒への手紙12章:15)